太田　日本経済を人間にたとえたら、今は風邪をひいている状態です。そんな状態で水風呂に入れてどうするのか。生きている経済、金融、産業を支援して伸ばすことに最優先で取り組まなければなりませんね。巨大地震の可能性が指摘される今、国民の安全を守る分野に集中投資する「防災・減災ニューディール」も必要です。

飯田　どの国も財政再建は景気回復の中で達成しており、増税先行で達成したという話は聞いたことがない。皮肉を込めて言えば〝世界初の試み〟です。

景気浮揚の手打たない民主党政権

飯田　2009年の夏に政権交代がありましたが、民主党政権は経済対策に無関心だったと言わざるをえません。彼らの発言は、まるで他人事、評論家のようです。

太田　やっと景気が上向き始めた、あの時、民主党政権は「あれも、これも」と、どんどん財政を削減、縮小。世界の動きに対して日本だけが〝逆噴射〟政策をとり、一気に景気が落ち込んだ。その後も子ども手当や農家戸別所得補償、高速道路の無料化など、成長を犠牲にして手当や分配ばかり。自公政権の時より、はるかに多い90数兆円という当初予算を組みながら、この2年半、景気を浮揚させる手を、まったく打ってきませんでした。

私は以前から「安全・安心で勢いのある国」ということを訴えています。勢いある日本の再建へ必要な視点は何でしょう。

飯田　さまざま課題はありますが、まずは雇用対策に力を入れなければなりません。70歳まで働ける社会を構築し、若者の雇用改善はもちろん、結婚・出産で一度家庭に入った女性の労働参加も重要です。

太田　「M字カーブ」と言われる女性、不安定雇用の若者、そして60代以上。この3者に雇用の場があることで需要になりますね。

ブレずにやり抜く公明の改革に期待

太田　先日、ある企業のトップと会った際、「中小企業にとっては円高と消費増税が一番困る。デフレと闘わない政府などいらない」との訴えがありました。中小企業を守り抜かなければ、勢いある日本再建はできませんね。

飯田　どこかで金を稼がないと世の中には回りません。では、誰を元気にすればいいか。金を稼ぐ現場――〝経済の現場〟である中小企業を活性化する必要があります。さらに、労働者が暮らしやすい社会、つまり失業率の低い社会にしなければなりません。

太田　このままでは本当に日本経済が、ぺしゃんこになってしまう。現場を回ると「円高、デフレ、電力不足、政治の混乱を何とかしてほしい」という悲鳴ばかり。こうした課題を解決する政治のリーダーシップを打ち立てなければなりません。

飯田　私は他党の会合にも呼ばれますが、公明党には常に現場的な視点がありますよね。それに理念がはっきりしていて、党内抗争で分裂する心配もない。この安定感は高く評価できます。特定の得意分野を絞り込むことで官僚の力を排除し、ブレずに改革を進められる党だと思います。

増税で税収が減るという破綻へのシナリオが、リアリティーをもって迫っています。この1、2年は本当に勝負の年です。頑張ってください。

太田　ありがとうございます。「安全・安心で勢いのある国」をめざし、一生懸命、頑張ります。

いいだ・やすゆき

駒澤大学准教授。経済学者。東京都生まれ。若手論客としてメディアにもたびたび出演。著書に「世界一シンプルな経済入門 経済は損得で理解しろ!」（エンターブレイン）ほか多数。東京大学経済学部卒。36歳

いまも全力。太田あきひろの奮闘

〝太田提言〟から日本の津波対策が動き始める

いつ起きてもおかしくないといわれる首都を直撃する巨大地震。「3・11」当日、東京・隅田川でも足立区小台で75㎝、荒川の笹目橋で50㎝の津波が観測されました。

そこで太田は昨年4月以降、津波対策強化を国交相に数度にわたり直談判。これにより国の津波対策が動き始めました。12月に成立した、津波に強いまちづくりを進める「津波防災地域づくり法」は、〝太田提言〟がきっかけでした。

京都大学・同大学院で耐震工学を研究した地震対策のエキスパート・太田あきひろは、首都の防災を再構築する先頭に立っています。

国交相に地震・津波対策の強化を申し入れる（12年1月18日）

被災地にカツオが戻った！復興から再建へ突破口を開く

津波で壊滅的打撃を被った水産業の街・宮城県気仙沼市。政治家が顔を見せても時に数分の滞在に、不信感が募っていました。

しかし太田は、「何としてもカツオを揚げたい。冷凍用の氷、船を動かす燃油、エサがほしい」との切実な訴えを受け、直ちに農水相らに支援を強く要請。6月下旬、震災後初のカツオ水揚げは、復興への〝のろし〟となりました。

「太田さんは分かってくれた」

気仙沼漁業協同組合　佐藤亮介代表理事組合長

議員の方々は、来る人、来る人、皆さん初めてですから、私は、毎回、毎回、交通整理をして、何度も一生懸命に話しました。太田さんにも率直に状況を説明しました。太田さんは、ゆっくり、いろいろな話を聞いてくださいました。

その後、農水大臣から電話をいただきました。なんで私の携帯に電話がかかってくるんだろうとビックリしました。

「太田さんからも強く言われています。何とか私も、一生懸命、力になりますから」というお話をいただきました。大変うれしかったです。直接お会いした時も、太田さんのお名前が出てきました。

ご尽力をいただいた皆さんには、本当に感謝しています。

現場を見ないで、現場の人の話を聞かないで、東京だけで考えていても、復興支援はできないと思います。ほんのわずかな差ですけど、この差で全部が決まってしまうんです。

そのわずかの差を埋めるために、太田さんには、ぜひまた現地で状況を聞いてもらって、力になっていただきたいと念願しています。

詳しくは太田あきひろホームページ「ピックアップレポート」へ